

様式1

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

[illegible]

⑥ プログラムを構成する授業の内容

| 授業に含まれている内容・要素                                                                                |     | 授業に含まれているスキルセットのキーワード                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている               | 1-1 | 【社会で起きている変化】(第2回)<br>・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット<br>・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会<br>・人間の知的活動とAIの関係性                                                                                                              |
|                                                                                               | 1-6 | 1-6.【データ・AI利活用の最新動向】(第6回)<br>・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど)<br>・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)<br>・基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル                                                                 |
| (2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの                         | 1-2 | 【社会で活用されているデータ】(第4回)<br>・調査データ、実験データ、人の行動ログデータなど<br>・1次データ、2次データ、データのメタ化<br>・構造化データ、非構造化データ(文章、画像、動画、音声/音楽など)<br>・データ作成(ビッグデータとアノテーション)                                                                        |
|                                                                                               | 1-3 | 【データ・AIの活用領域】(第5回)<br>・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)<br>・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど<br>・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など                                                                               |
| (3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの   | 1-4 | 【データ・AI利活用のための技術】(第5回)<br>・データ解析: 予測、グルーピングなど<br>・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、関係性の可視化、地図上の可視化など<br>・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など<br>・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと<br>・マルチモーダル(言語、画像、音声 など)、生成AIの活用(プロンプトエンジニアリング) |
|                                                                                               | 1-5 | 【データ・AI利活用の現場】(第6回)<br>・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、教育、芸術、製造等におけるデータ・AI活用事例紹介)                                                                                                                         |
| (4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする          | 3-1 | 【データ・AIを扱う上での留意事項】(第3回)<br>・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)<br>・データ倫理<br>・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)<br>・データ・AI活用における負の事例紹介                                                             |
|                                                                                               | 3-2 | 【データを守る上での留意事項】(第3回)<br>・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介<br>・サイバーセキュリティ<br>・データを守るための原則(情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性))<br>・データを守るための方法(暗号化と復号、匿名化、ユーザ認証とアクセス制御)                                                              |
| (5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの | 2-1 | 2-1.【データを読む】(第7回,第8回,第11回)<br>・データの種類(量的変数、質的変数)<br>・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)<br>・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)<br>・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値 ・相関 ・クロス集計表                                             |
|                                                                                               | 2-2 | 【データを説明する】(第8回,第11回,第13-15回)<br>・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、箱ひげ図)<br>・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)<br>・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)                                                          |
|                                                                                               | 2-3 | 2-3.【データを扱う】(第7回,第8回,第10回)<br>・データの集計(和、平均)<br>・データの並び替え、ランキング                                                                                                                                                 |

⑦ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

本プログラムを通じて、学生はデータサイエンスとAIの基礎理論や技術を系統的に学び、データの収集、整理、解析、可視化の一連のプロセスを実践できるスキルを身に付けます。これにより、データに基づく意思決定の重要性を理解し、得られた情報を正確に読み解いてわかりやすく説明する力が養われるとともに、その活用方法を考えられるようになります。また、データ活用に伴う倫理的観点や情報セキュリティの問題にも意識を向け、状況に応じて適切な判断を下せる能力を育むことができます。

## リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

[illegible]

## 教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

## ① 全学の教員数

|       |    |   |
|-------|----|---|
| (常勤)  | 28 | 人 |
| (非常勤) | 35 | 人 |

## ② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

|   |   |
|---|---|
| 2 | 人 |
|---|---|

## ③ プログラムの運営責任者

|        |            |
|--------|------------|
| (責任者名) | 手塚一郎       |
| (役職名)  | 学長(兼・教学部長) |

## ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

|      |       |
|------|-------|
| (名称) | 教学委員会 |
|------|-------|

## ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

|      |         |
|------|---------|
| (名称) | 教学委員会規程 |
|------|---------|

## ⑥ 体制の目的

本プログラムの体制は、数理・データサイエンス・AIに関する効果的な教育を実現することを目的としています。そのために、プログラム全体の管理・運営を担い、カリキュラムの設計や内容の検討、必要に応じた見直しを行います。また、教育の質を継続的に向上させるため、自己点検・評価を実施し、得られた結果を基にプログラムの改善・進化に反映させます。あわせて、文部科学省へのプログラム認定申請をはじめとする各種手続きを適切に行い、大学全体としての数理・データサイエンス・AI教育を確かなものとする包括的な仕組みとして機能させていきます。

## ⑦ 具体的な構成員

【教学部長】  
 [学長] 手塚 一郎 法学部法律学科 教授 [プログラム運営責任者]  
 【教学委員】  
 後藤 雅彦 法学部法律学科 教授  
 園田 康博 法学部法律学科 教授  
 渡邊 美樹 法学部法律学科 教授  
 大倉 直子 法学部法律学科 准教授  
 加納 久子 法学部法律学科 准教授 [プログラム統括担当者]  
 百合草 浩治 法学部法律学科 准教授  
 酒本 夏輝 法学部法律学科 講師  
 伊禮 誠汰 法学部法律学科 助教  
 学務課課長補佐、学務課主任  
 ※令和7年の申請時の教学委員会の体制を記載

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

|          |      |
|----------|------|
| 令和7年度履修率 | 22%  |
| 令和8年度予定  | 50%  |
| 令和9年度予定  | 75%  |
| 令和10年度予定 | 100% |
| 令和11年度予定 | 100% |

具体的な計画

本プログラムは、1年次の必修科目のみから構成され、令和7年度以降、全学生が年次進行に伴って履修する。そのため、履修者数および履修率は年次進行に応じて段階的に向上し、令和10年度には全学生への履修が達成される見込みである。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムは1年次の必修科目のみで構成されており、令和7年度以降、全学生が年次進行に伴って履修する。そのため、追加の体制・取組を要さずとも、全学生が受講可能な体制が教育課程の中に組み込まれている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本プログラムは、1年次の必修科目のみから構成され、令和7年度以降、全学生が年次進行に伴って履修する。具体的な周知方法・取組として、大学ホームページにおいて本プログラムの目的や内容を学内外に広く発信するとともに、初回授業時にプログラムの趣旨や到達目標を説明し、学生への理解促進と履修意識の向上を図る。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本プログラムは、1年次の必修科目のみから構成され、令和7年度以降、全学生が年次進行に伴って履修する。サポート体制として、教学ガイダンスやWeb履修登録ガイダンスの中で、1年次必修科目としての位置付けを説明するとともに、学務課窓口で、学生からの履修に関する個別相談にも随時対応できる体制を整えている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

学習管理システム(LMS: Google Classroom)を活用し、授業資料や課題、参考教材等を随時配信するとともに、コメント機能を通じて授業時間外においても個別の質問に対応できる体制を整備している。授業時間内には、教員による対面での学習指導や質問対応を実施し、授業時間外においても、担当教員が設定するオフィスアワーを活用することで、学修内容に関する質問・相談に継続的に応じる体制を整備している。

## 自己点検・評価について

## ① プログラムの自己点検・評価を行う体制

教学委員会

(責任者名) 手塚一郎

(役職名) 学長(兼・教学部長)

## ② 自己点検・評価体制における意見等

| 自己点検・評価の視点                       |  | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----------------------------------|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学内からの視点                          |  |                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| プログラムの履修・修得状況                    |  | 本プログラムは令和7年度入学生より1年次の必修科目として教育課程に組み込まれており、令和7年度のプログラム対象科目である「情報リテラシー」においては、履修者数164名、修得者数124名、単位修得率は76%となった。年次進行に伴い全学生が順次履修するため、全学履修率は令和7年度の22%から、令和8年度50%、令和9年度75%と段階的に向上し、令和10年度以降には100%に到達する見込みである。                                                                                 |
| 学修成果                             |  | 令和7年度の本プログラム履修者164名の成績分布は、S評価17%、A評価17%、B評価18%、C評価23%であり、単位修得者は124名、単位修得率は76%であった。S・A・B評価の上位層が計86名(52%)と過半数を占め、プログラムの到達目標を高い水準で達成している学生が多いことが確認できる。一方で、D評価3%、E評価2%に加えてF評価19%が存在しており、受講継続や学修意欲の向上に向けた支援の充実が今後の課題となっている。                                                                |
| 学生アンケート等を通じた学生の<br>内容の理解度        |  | 令和7年度のプログラム対象科目である「情報リテラシー」の授業アンケートにおいて、全クラスの5点満点中の平均値として、教材の有用性(4.31)、シラバスへの準拠(4.30)、授業内容の理解度・スキル向上(4.20)をはじめ、多くの項目で4点以上の高い評価が得られた。全体として授業の質および学生の理解度は良好な水準にあると判断される。一方、授業の進行速度(3.51)については、「やや速い」と感じる学生も一定数いることから、今後は説明の区切り方や補足資料の活用等により、理解を一層促進する工夫が必要である。引き続きアンケート結果を授業改善に反映させていく。 |
| 学生アンケート等を通じた後輩等<br>他の学生への推奨度     |  | 授業の質向上を目的として、毎年度「授業改善のためのアンケート」を実施している。アンケート結果をもとに、担当教員は授業の良好な点や改善点、学生の学修状況を踏まえた次年度の改善計画を整理し、一覧として取りまとめている。これらの結果は教職員および学生に共有しており、図書館でも閲覧可能としている。こうした仕組みにより、授業改善の状況を可視化し、在学生および後輩学生への有用な情報提供を行っている。                                                                                   |
| 全学的な履修者数、履修率向上<br>に向けた計画の達成・進捗状況 |  | 本プログラムは1年次必修科目として教育課程に体系的に位置付けられており、年次進行に伴い全学生が順次履修する仕組みとなっている。令和7年度の履修率は22%であるが、令和8年度50%、令和9年度75%と段階的に向上し、令和10年度以降には100%に到達する計画である。また、履修状況については教務データにより継続的に把握し、必要に応じて適切な改善を行う体制を整備している。                                                                                              |

| 自己点検・評価の視点                                                                                                                      |  | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等                                                                                                                                                                                                                 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学外からの視点                                                                                                                         |  |                                                                                                                                                                                                                                              |
| 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価                                                                                                       |  | 本プログラムは令和7年度入学生より開始されたため、現時点では卒業生は在籍しておらず、修了者の進路・活躍状況および企業等からの評価を把握できる段階になり。今後、学生が卒業する時期に合わせて、進路追跡調査等を通じ、本プログラムで培った数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーが実社会においてどのように活かされているかを継続的に把握・評価していく予定である。                                                          |
| 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見                                                                                                   |  | 本プログラムは令和7年度に開始されたため、現時点では産業界からの直接的な意見は得られていない。しかし、数理・データサイエンス・AIの基礎素養を全学生が身につけることは、産業界からも重要視されている。今後はキャリアセンター等を通じて関係者の意見を収集し、教育内容・手法の継続的な見直しを行うことで、社会的要請に応じた教育の充実を図る予定である。                                                                  |
| 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること                                                                                         |  | 本プログラムでは、オープンデータを用いたデータ分析演習を通じて、学生自らがデータを扱い、可視化や分析を行うことで、学ぶことの楽しさを体感できるようにしている。また、生成AIの仕組みや利活用、情報セキュリティや著作権といった内容を扱うことで、これらの知識が現代社会において不可欠であることを理解させ、学ぶ意義を明確にし、主体的な学修意欲の喚起につなげている。                                                           |
| <p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p> |  | 本プログラムでは、毎年度実施する授業アンケートおよび授業改善アンケートの結果を担当教員がフィードバックとして取りまとめ、次年度の授業内容・教授方法の改善に反映させている。また、データサイエンスやAI技術の急速な進展に対応するため、シラバスの内容を定期的に見直し、最新の技術動向や社会的ニーズを踏まえた教育内容の更新を継続的にを行っている。これらの取り組みを通じて、学生にとって常に実践的かつ有益な教育プログラムとなるよう、PDCAサイクルに基づく継続的な改善を図っていく。 |

|                         |                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |             |         |         |          |              |         |
|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|---------|---------|----------|--------------|---------|
| 授 業<br>科目名              | 【 G 】                                                                                                                                              | 情報リテラシー                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 区 分         | 開講年次    | 【 G 】 1 | 単位数      | 【 G 】 2      |         |
|                         | 【 H 】                                                                                                                                              | 情報リテラシー                                                                                                                                                                                                                                                                                          | その他参照       |         | 【 H 】 1 |          | 【 H 】 2      |         |
| 科目区分                    | 基本科目：【G・H】教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（全教科）                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |             |         |         |          |              |         |
| 授業形態                    | 対面授業                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |             |         |         |          |              |         |
| 担当形態                    | 単 独                                                                                                                                                | 【 G 】 教員の免許状取得のための（全教科必修） 科目                                                                                                                                                                                                                                                                     |             |         |         |          | 【 G 】 2      |         |
|                         |                                                                                                                                                    | 【 H 】 教員の免許状取得のための（全教科必修） 科目                                                                                                                                                                                                                                                                     |             |         |         |          |              |         |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等       | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目：「情報機器の操作」                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |             |         |         |          | 【 G 】 2      |         |
|                         |                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |             |         |         |          |              |         |
| サブ<br>タイトル              | データサイエンス・AI基礎                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |             |         | 担当者     | 谷津 見崎 加納 |              |         |
| 授業概要                    | 【概要】                                                                                                                                               | 本講義は、データサイエンスと人工知能(AI)の基礎を学ぶことで、日常生活や社会でのAIの応用例を理解し、実際に活用できる力を養うことを目的としています。受講生は、AIの基本的な能力を把握し、身近に存在する各種AIツールの利用例を通して、現代社会におけるその役割を実感します。また、データの収集・解析・可視化のプロセスを学びながら、統計的手法を用いた情報の表現方法やルールを体系的に理解する機会を提供します。さらに、情報社会における情報倫理やモラルについても学び、AI・データ活用にあたっての基本的な配慮や判断力を培うことで、今後の専門分野学習への土台を築く内容となっています。 |             |         |         |          |              | 【 G 】 2 |
|                         | 【到達目標】                                                                                                                                             | 本講義は、コンピュータの操作を通じてデータサイエンスおよびAIに関する基本的な理論と技術を体系的に学び、データの収集、整理、解析、可視化に関する実践的なスキルを習得することを目指します。受講生は、データに基づく意思決定の重要性を理解し、得られた情報を的確に読み解き、説明し、活用する能力を身につけます。また、データの利活用に伴う倫理的課題や情報セキュリティの重要性について考察し、適切な判断ができる力を養います。これにより、実社会においてデータを活用した課題解決に貢献できる基礎的な素養を身につけることを到達目標とします。                            |             |         |         |          |              |         |
| 履修条件                    | 特になし                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |             |         |         |          |              |         |
| アクティブ<br>ラーニングの<br>方法   | 【－】                                                                                                                                                | 事前学習型                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 【－】         | 反転授業    | 【－】     | 調査学習     | 【－】 フィールドワーク |         |
|                         | 【－】                                                                                                                                                | 双方向アンケート                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 【－】         | グループワーク | 【－】     | 対話・議論型授業 | 【－】 ロールプレイ   |         |
|                         | 【○】                                                                                                                                                | プレゼンテーション                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 【－】         | 模擬授業    | 【－】     | PBL      | 【－】 その他      |         |
| ディプロマ・<br>ポリシーとの<br>関連性 | DP(ディプロマ・ポリシー)①                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | － (当てはまらない) |         |         |          |              |         |
|                         | DP(ディプロマ・ポリシー)②                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | ◎ (よく当てはまる) |         |         |          |              |         |
|                         | DP(ディプロマ・ポリシー)③                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | ◎ (よく当てはまる) |         |         |          |              |         |
|                         | DP(ディプロマ・ポリシー)④                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | － (当てはまらない) |         |         |          |              |         |
| 他科目との<br>関連性            | 【Gカリキュラム】「情報活用演習(表計算)」「情報活用演習(プレゼンテーション)」「マルチメディア演習」「プログラミング基礎」「データベース」において、本科目の単位修得が前提。□                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |             |         |         |          |              |         |
| 教科書                     | 『[改訂新版]AIデータサイエンスリテラシー入門』, 吉岡剛志, 森倉悠介, 小林領, 照屋健作 著, 2024, 技術評論社, ISBN 978-4-297-14409-8                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |             |         |         |          |              |         |
| 参考書                     | 『基礎からはじめるデータサイエンス』, 保本 正芳, 2022, noa出版, ISBN 978-4-908434-59-4<br>『教養としてのデータサイエンス 改訂第2版』, 北川源四郎, 竹村彰通編 ; 内田誠一 [他] 著, 2024, 講談社, ISBN 978-406537939 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |             |         |         |          |              |         |
| 評価方法                    | 課題(80%)、授業への参加態度(20%)を総合的に判断します。                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |             |         |         |          |              |         |
| フィードバック<br>方法           | Google Classroomを使用し、課題のフィードバックを行います。                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |             |         |         |          |              |         |
| 評価基準                    | 授業内容についてよく理解していると見なせた者にはその程度に応じてSまたはA、一部不十分な箇所がある者についてはBまたはCとします。授業内容への理解自体が不十分な者については、その程度に応じてDまたはEとします。全欠席など評価不能の場合にはFとします。                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |             |         |         |          |              |         |

| 授 業<br>科目名 | 【 G 】                                                                                         | 情報リテラシー                         | 区 分   | 開講年次 | 【 G 】 1                        | 単位数 | 【 G 】 2 |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|-------|------|--------------------------------|-----|---------|
|            | 【 H 】                                                                                         | 情報リテラシー                         | その他参照 |      | 【 H 】 1                        |     | 【 H 】 2 |
| 授業回数       | 授業内容                                                                                          |                                 |       |      |                                |     |         |
| 1          | ガイダンス(講義の概要と進め方)、PCのログイン、Campus Plan、Chrome、Google Workspace for Education、Gmailの利用方法         |                                 |       |      |                                |     |         |
|            | 予習:                                                                                           | 教科書・資料を読み不明な語句や疑問点について調べる。(60分) |       | 復習:  | 授業内容を振り返り学修した知識や機能を復習する。(120分) |     |         |
| 2          | Windowsの基礎、デスクトップの画面構成、エクスプローラーの操作、ファイルとフォルダーの操作、社会で起きている変化                                   |                                 |       |      |                                |     |         |
|            | 予習:                                                                                           | 教科書・資料を読み不明な語句や疑問点について調べる。(60分) |       | 復習:  | 授業内容を振り返り学修した知識や機能を復習する。(120分) |     |         |
| 3          | データ・AI利活用における留意事項                                                                             |                                 |       |      |                                |     |         |
|            | 予習:                                                                                           | 教科書・資料を読み不明な語句や疑問点について調べる。(60分) |       | 復習:  | 授業内容を振り返り学修した知識や機能を復習する。(120分) |     |         |
| 4          | 社会で活用されているデータ                                                                                 |                                 |       |      |                                |     |         |
|            | 予習:                                                                                           | 教科書・資料を読み不明な語句や疑問点について調べる。(60分) |       | 復習:  | 授業内容を振り返り学修した知識や機能を復習する。(120分) |     |         |
| 5          | データ・AIの活用領域、利活用のための技術                                                                         |                                 |       |      |                                |     |         |
|            | 予習:                                                                                           | 教科書・資料を読み不明な語句や疑問点について調べる。(60分) |       | 復習:  | 授業内容を振り返り学修した知識や機能を復習する。(120分) |     |         |
| 6          | データ・AI利活用の現場、最新動向                                                                             |                                 |       |      |                                |     |         |
|            | 予習:                                                                                           | 教科書・資料を読み不明な語句や疑問点について調べる。(60分) |       | 復習:  | 授業内容を振り返り学修した知識や機能を復習する。(120分) |     |         |
| 7          | データリテラシー1(データを読む・説明する・扱う①)                                                                    |                                 |       |      |                                |     |         |
|            | 予習:                                                                                           | 教科書・資料を読み不明な語句や疑問点について調べる。(60分) |       | 復習:  | 授業内容を振り返り学修した知識や機能を復習する。(120分) |     |         |
| 8          | データリテラシー2(データを読む・説明する・扱う②)                                                                    |                                 |       |      |                                |     |         |
|            | 予習:                                                                                           | 教科書・資料を読み不明な語句や疑問点について調べる。(60分) |       | 復習:  | 授業内容を振り返り学修した知識や機能を復習する。(120分) |     |         |
| 9          | データリテラシー3(データを読む・説明する・扱う③)                                                                    |                                 |       |      |                                |     |         |
|            | 予習:                                                                                           | 教科書・資料を読み不明な語句や疑問点について調べる。(60分) |       | 復習:  | 授業内容を振り返り学修した知識や機能を復習する。(120分) |     |         |
| 10         | データリテラシー4(データを読む・説明する・扱う④)                                                                    |                                 |       |      |                                |     |         |
|            | 予習:                                                                                           | 教科書・資料を読み不明な語句や疑問点について調べる。(60分) |       | 復習:  | 授業内容を振り返り学修した知識や機能を復習する。(120分) |     |         |
| 11         | データリテラシー5(データを読む・説明する・扱う⑤)                                                                    |                                 |       |      |                                |     |         |
|            | 予習:                                                                                           | 教科書・資料を読み不明な語句や疑問点について調べる。(60分) |       | 復習:  | 授業内容を振り返り学修した知識や機能を復習する。(120分) |     |         |
| 12         | データリテラシー6(オープンデータを用いたデータ分析)                                                                   |                                 |       |      |                                |     |         |
|            | 予習:                                                                                           | 教科書・資料を読み不明な語句や疑問点について調べる。(60分) |       | 復習:  | 授業内容を振り返り学修した知識や機能を復習する。(120分) |     |         |
| 13         | PowerPoint (1) : プレゼンテーションの概要、スライド作成・編集                                                       |                                 |       |      |                                |     |         |
|            | 予習:                                                                                           | 教科書・資料を読み不明な語句や疑問点について調べる。(60分) |       | 復習:  | 授業内容を振り返り学修した知識や機能を復習する。(120分) |     |         |
| 14         | PowerPoint (2) : プレゼンテーションの適切な準備                                                              |                                 |       |      |                                |     |         |
|            | 予習:                                                                                           | 教科書・資料を読み不明な語句や疑問点について調べる。(60分) |       | 復習:  | プレゼンテーション資料の準備をする。(120分程度)     |     |         |
| 15         | PowerPoint (3) : 成果報告とまとめ                                                                     |                                 |       |      |                                |     |         |
|            | 予習:                                                                                           | プレゼンテーション資料の見直しを行う。(60分程度)      |       | 復習:  | 授業の振り返りを行う。(120分程度)            |     |         |
| その他        | 本科目の内容は、「数理・データサイエンス・AI (リテラシーレベル) モデルカリキュラム」に準拠しています。<br>※G・Hカリ: 法【必修修(○あ)】ｽﾎﾟ【必修修(○あ)】情【必修】 |                                 |       |      |                                |     |         |

専門教育科目（講義・演習科目）



基礎科目（講義・演習・実技科目）

基本科目

外国語科目

保健体育科目

「清和大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム」  
1年次 全学必履修（必修）開講科目※

※法【必履修】/ｽﾎﾟ【必履修】/情【必修】

『情報リテラシー』

## 清和大学教学委員会規程

(目的)

第1条 本学における、教務に関する事項の審議及び運営のため教学委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次に掲げる者をもって構成する。

- 一 教学部長
- 二 教授会から選出された専任教員
- 三 学務課長
- 四 教授会から選出された職員

(任期)

第3条 前条第2号及び第4号の委員の任期は、1年とする。ただし、再任は妨げない。

(委員長)

第4条 委員会の長は、教学部長をもって充てる。

(権限)

第5条 委員会は、次の事項を管掌する。

- 一 教育課程（教養教育を含む）に関する事項
- 二 時間割の作成に関する事項
- 三 学生の履修登録に関する事項
- 四 学生（新入学生・編入学生を含む）の単位認定に関する事項
- 五 学生の休学・復学・転コース・在籍希望・転学・留学・退学・除籍に関する事項
- 六 研究生、科目等履修生、特別聴講生及び委託生に関する事項
- 七 外国人留学生に関する事項
- 八 削除
- 九 削除
- 十 その他、学長又は教授会から諮問又は委託された事項

(委員会の開催)

第6条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(議事録)

第7条 委員会は、開催の都度、議事録を作成し、次の事項を記載しなければならない。

- 一 開催の日時及び場所
- 二 出席の状況
- 三 議案審議の概要
- 四 決定事項の内容

2 議事録は、本学専任の教職員の閲覧請求により閲覧の用に供される。

(幹事)

第8条 委員会に、資料の整理、議事録作成等の事務を処理するため、幹事を置く。

2 幹事は、学務課長をもって充てる。

(その他)

第9条 委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、委員会が立案し、学長室会議及び教授会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年11月5日から施行する。

2 清和大学入学試験委員会規程は、これを廃止する。

附 則

この規程は、平成25年5月9日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

(平成27年2月12日「第5条」改正、「第10条」新設)

附 則

この規程は、平成31年4月4日から施行し、平成31年4月1日から適用する。

(平成31年4月4日「第2条」「第8条」改正)

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

(令和2年3月12日「第1条」改正、「第5条第八号・第九号」削除)

附 則

この規程は、令和5年4月13日から施行し、令和5年4月1日から適用する。

(令和5年4月13日教授会「第5条」「第7条第2項」改正)

## 清和大学教学委員会規程

(目的)

第1条 本学における、教務に関する事項の審議及び運営のため教学委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次に掲げる者をもって構成する。

- 一 教学部長
- 二 教授会から選出された専任教員
- 三 学務課長
- 四 教授会から選出された職員

(任期)

第3条 前条第2号及び第4号の委員の任期は、1年とする。ただし、再任は妨げない。

(委員長)

第4条 委員会の長は、教学部長をもって充てる。

(権限)

第5条 委員会は、次の事項を管掌する。

- 一 教育課程（教養教育を含む）に関する事項
- 二 時間割の作成に関する事項
- 三 学生の履修登録に関する事項
- 四 学生（新入学生・編入学生を含む）の単位認定に関する事項
- 五 学生の休学・復学・転コース・在籍希望・転学・留学・退学・除籍に関する事項
- 六 研究生、科目等履修生、特別聴講生及び委託生に関する事項
- 七 外国人留学生に関する事項
- 八 削除
- 九 削除
- 十 その他、学長又は教授会から諮問又は委託された事項

(委員会の開催)

第6条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(議事録)

第7条 委員会は、開催の都度、議事録を作成し、次の事項を記載しなければならない。

- 一 開催の日時及び場所
- 二 出席の状況
- 三 議案審議の概要
- 四 決定事項の内容

2 議事録は、本学専任の教職員の閲覧請求により閲覧の用に供される。

(幹事)

第8条 委員会に、資料の整理、議事録作成等の事務を処理するため、幹事を置く。

2 幹事は、学務課長をもって充てる。

(その他)

第9条 委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、委員会が立案し、学長室会議及び教授会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年11月5日から施行する。

2 清和大学入学試験委員会規程は、これを廃止する。

附 則

この規程は、平成25年5月9日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

(平成27年2月12日「第5条」改正、「第10条」新設)

附 則

この規程は、平成31年4月4日から施行し、平成31年4月1日から適用する。

(平成31年4月4日「第2条」「第8条」改正)

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

(令和2年3月12日「第1条」改正、「第5条第八号・第九号」削除)

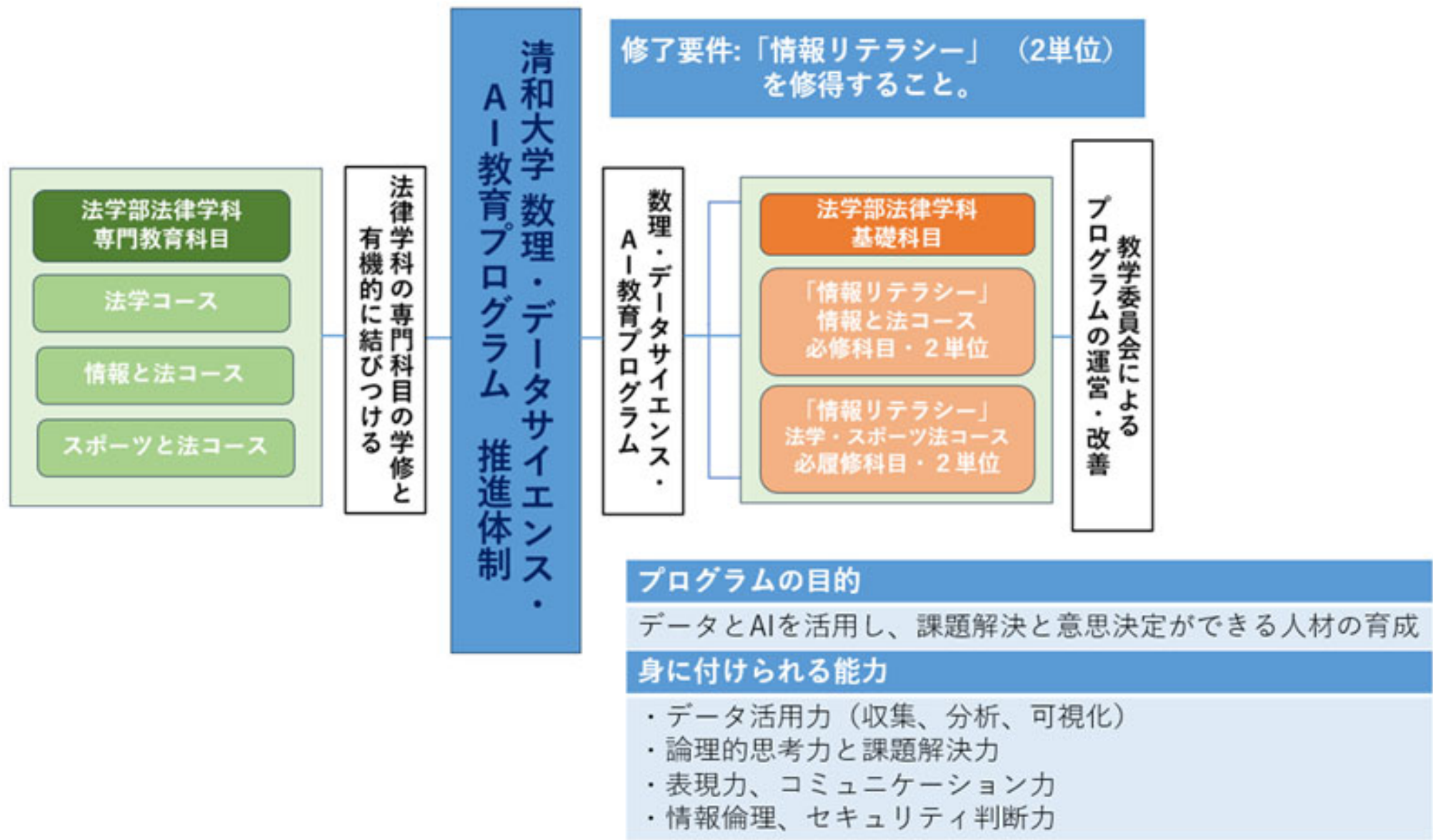
附 則

この規程は、令和5年4月13日から施行し、令和5年4月1日から適用する。

(令和5年4月13日教授会「第5条」「第7条第2項」改正)

|          |                            |       |          |
|----------|----------------------------|-------|----------|
| 大学等名     | 清和大学                       | 申請レベル | リテラシーレベル |
| 教育プログラム名 | 清和大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム | 申請年度  | 令和8年度    |

取組概要



2025年度前期授業アンケート

|           | 回収率    | Q1   | Q3   | Q4   | Q5   | Q6   | Q7   | Q8   | Q9   | Q10  | Q11  |
|-----------|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 情報リテラシー全体 | 69.92% | 4.17 | 4.20 | 3.54 | 3.94 | 4.05 | 4.30 | 4.31 | 4.13 | 4.23 | 3.51 |

Q1 この授業にどの程度参加しましたか。

⑤ すべて参加した ④ 8割以上参加した ③ 半分くらい参加した ② あまり参加しなかった ① ほとんど参加しなかった

Q3 授業の内容はよくわかりましたか。または、授業で目指されるスキルは向上しましたか。

⑤ とてもそう思う ④ ややそう思う ③ どちらでもない ② あまりそう思わない ① 全くそう思わない

Q4 この授業の予習または復習をしましたか。

⑤ とても当てはまる ④ ある程度当てはまる ③ どちらでもない ② あまり当てはまらない ① 全く当てはまらない

Q5 この授業分野について興味関心が高まりましたか。／今後スキルを向上させたいと思いましたか。

⑤ とても当てはまる ④ ある程度当てはまる ③ どちらでもない ② あまり当てはまらない ① 全く当てはまらない

Q6 この授業に満足しましたか。

⑤ とても満足した ④ ある程度満足した ③ どちらでもない ② やや不満である ① とても不満である

Q7 シラバス（授業計画）に沿って授業が行われていましたか。

⑤ とても当てはまる ④ ある程度当てはまる ③ どちらでもない ② あまり当てはまらない ① 全く当てはまらない

Q8 教員から提供された教材（たとえば配布資料など）は授業の理解に役立ちましたか。

実技科目）教員による助言や指導は、授業で取り組んだスポーツやアクティビティに関する技術レベルの改善・向上に役立ちましたか。

⑤ とても役立った ④ ある程度役立った ③ どちらでもない ② あまり役立たなかった ① 全く役立たなかった

Q9 この授業に意欲的に取り組みましたか。

⑤ とても当てはまる ④ ある程度当てはまる ③ どちらでもない ② あまり当てはまらない ① 全く当てはまらない

Q10 教員はこの授業の準備・工夫をしていましたか。

⑤ とても当てはまる ④ ある程度当てはまる ③ どちらでもない ② あまり当てはまらない ① 全く当てはまらない

Q11 この授業が進む速さは適切でしたか。

⑤ 速すぎ ④ やや速い ③ ちょうど良い ② すこし遅い ① 遅すぎ

※ Q1～Q10は⑤の選択肢が、Q11は③の選択肢が「最良」となりますが、数値が高いほど「速すぎ」、低いほど「遅すぎ」となります。